

河角龍典先生の思い出

松 永 光 平

河角龍典先生と初めてお会いしたのは、たしか二〇〇七年、歴史都市防災研究センター（現・歴史都市防災研究所）の地階にあるGIS室のことだったと思います。

河角龍典先生が発表された地形復原や歴史GISに関する論文を、事前にインターネット上で拝読していた私は、立派な大先生を想像し、若干緊張しながらお会いしたのですが、物腰の柔らかい、そして気さくな河角龍典先生を目の前に、私の緊張感もすぐになくなりました。

その後、河角龍典先生には公私ともにお世話になりました。研究面では、先生がメンバーになっていた、環境史研究会での発表という、貴重な機会をいただきました。それだけでなく、日本・中国・東アジアの古代都市の景観復原について、いろいろとお話を聞かせていただきました。生活面でもいろいろと気にかけてくださり、お忙しい中、河角直美先生とともに、私の子供のためにもいろいろとよくしてくださったことが忘れられません。こうした意味で、河角龍典先生は、私にとってほかに代えがたい先導者のお一人でした。

二〇一三年、私は、夏の京都国際地理学会議で河角龍典先生にお目にかかりました。お元氣そうな姿を見ていたので、二〇一五年四月に私が本学の教員として着任したあと、またすぐにお会いできるものと、思い込んでおりました。ですから、河角龍典先生がご病床にあられるということを目にしたとき、私は、信じられませんでした。訃報に接したときも、私は、そのことが事実であるということを受け入れられず、葬儀に参列することもできませんでした。

一年たち、河角龍典先生の死の重みに直面する勇気を少しずつもちはじめている自分に気づいております。研究面では、古代都市の景観復原、生活面では、家族ぐるみの琵琶湖旅行など、いろいろと一緒にさせていただいたことがありますが、残されたものとしてできることを、少しずつしていくほかありません。

生前、河角龍典先生にお会いできたことが、何よりありがたいことです。ご厚恩に対し、心よりお礼申し上げます。

（本学文学部准教授）